



会社概要

2025年2月

株式会社スカパー J S A Tホールディングス

証券コード：9412（東証プライム）

このプレゼンテーション資料に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、現在入手可能な情報に基づく経営陣の予測、計画、期待、判断などを基礎としています。これらの将来の見通しは、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が見通しと著しく異なる可能性があります。

(Ver. 2025年2月7日)

1. スカパー J S A T の概要

2. Space Business

3. Media Business

4. Growth Story



宇宙事業

衛星通信/地球観測

17機の
静止衛星を保有

35年間の
衛星運用実績

アジア最大級
国内唯一

安全保障領域
強化

メディア事業

有料多チャンネル放送/FTTH

270万件の
スカパー！加入件数

270万の
FTTH接続世帯数

放送/配信
ノウハウ

新規ビジネス
強化

財務状況（PL）



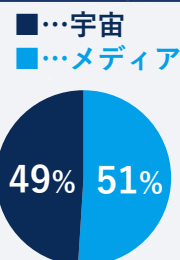
- 宇宙事業が成長を牽引、メディア事業は効率化により利益を確保
- 5期連続で当期純利益増

*収益認識会計基準等の適用による影響▲210億円

2023年度通期実績

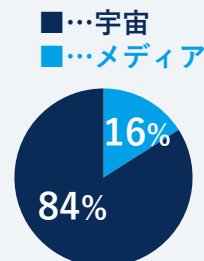
営業収益

1,219億円



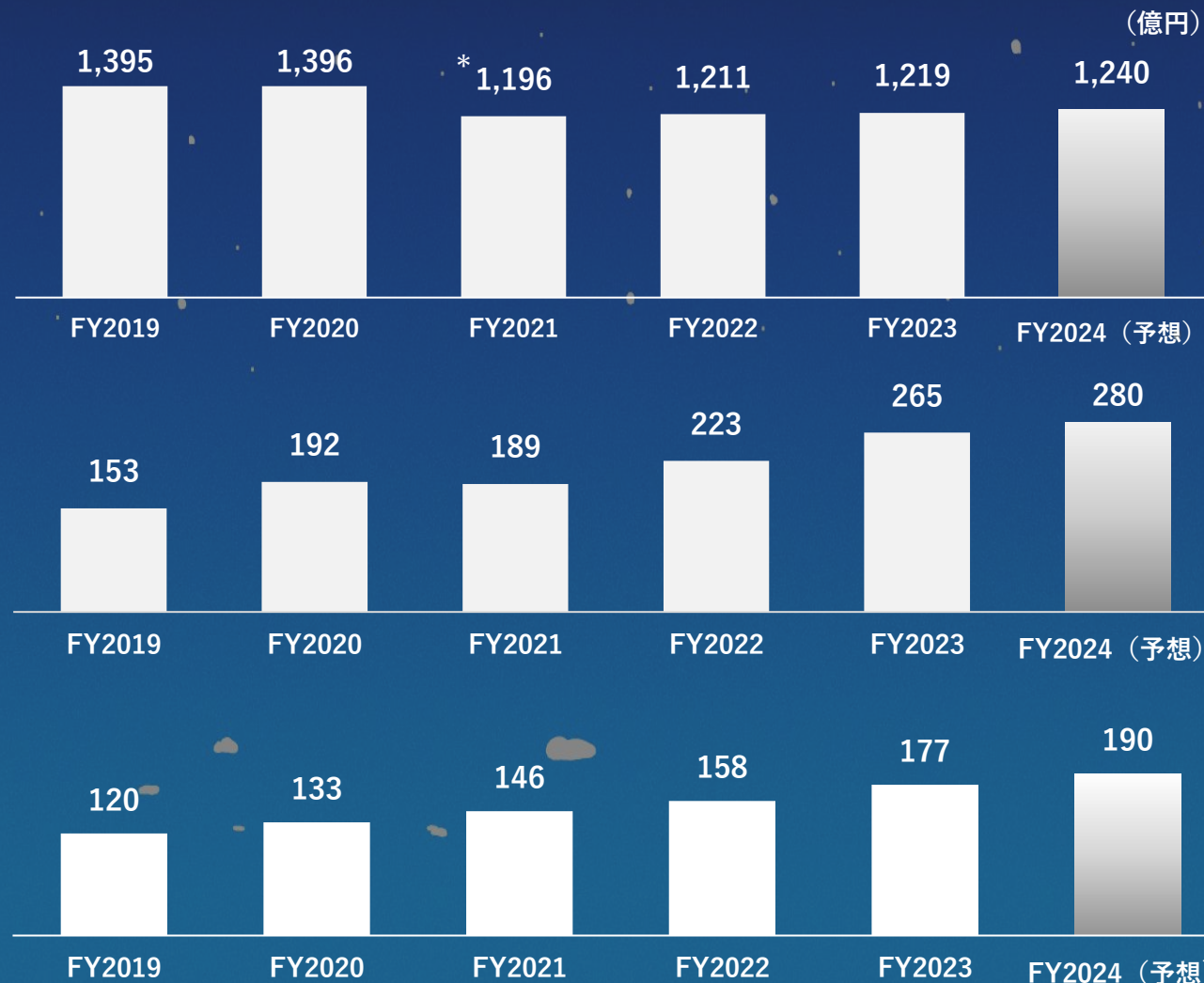
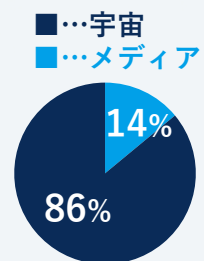
営業利益

265億円



親会社株主に帰属する
当期純利益

177億円





創出したキャッシュを投資・還元し、資産効率の向上を図る

2023年度通期実績

営業CF/フリーCF

424億円/270億円

設備投資/減価償却費

164億円/202億円

自己資本/ROE

2,702億円/6.6%





2022年以降株価は上昇傾向、さらなる株価・PBR向上を目指す



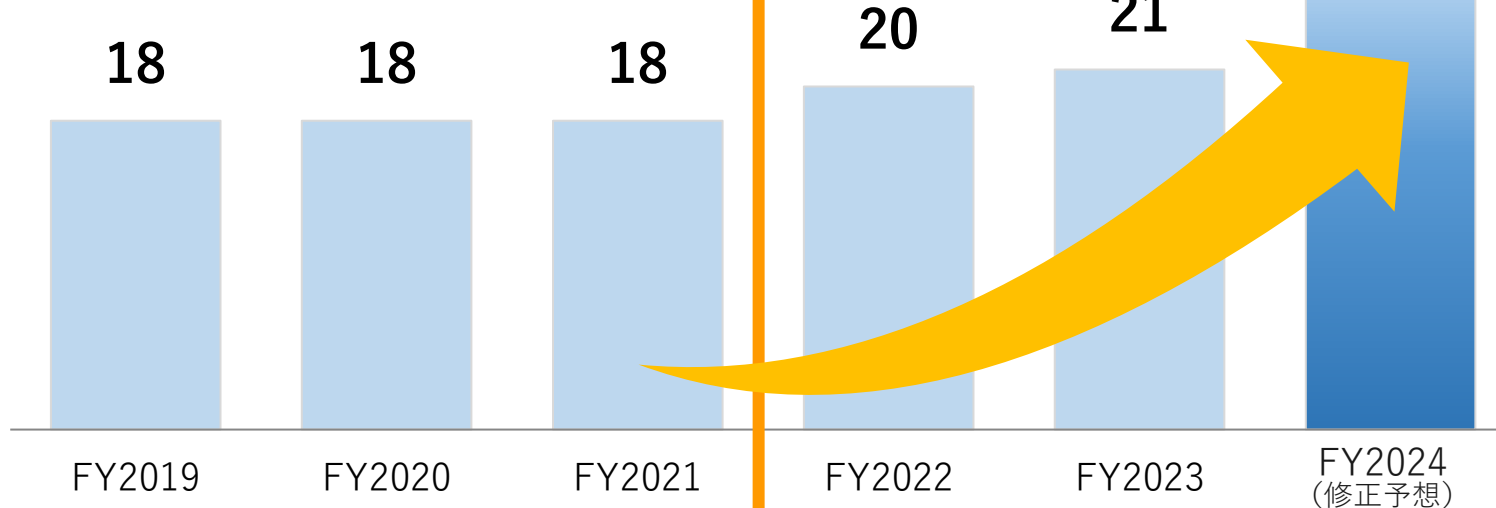
株主還元



- 期末配当予想を期初予想から5円増配し、16円に引き上げ
(1株あたり年間22円から27円に)
- 2022年度から2024年度の3年間の株主還元は、累計 245億円を見込む

1株あたり年間配当金

(円)



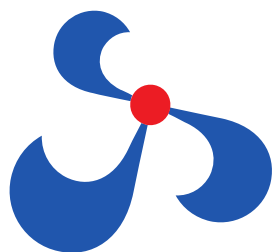
(億円)

	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024 (修正予想)
配当金総額	53	53	53	58	60	77
自己株式取得額	—	—	30	—	50	—
合計	53	53	83	58	110	77
2022年度以降累計				58	168	245

株主還元方針

(2022年4月28日公表)

FY2022～FY2026の
5年間で
株主還元400億円
配当に加え、
機動的に自己株式取
得を行う

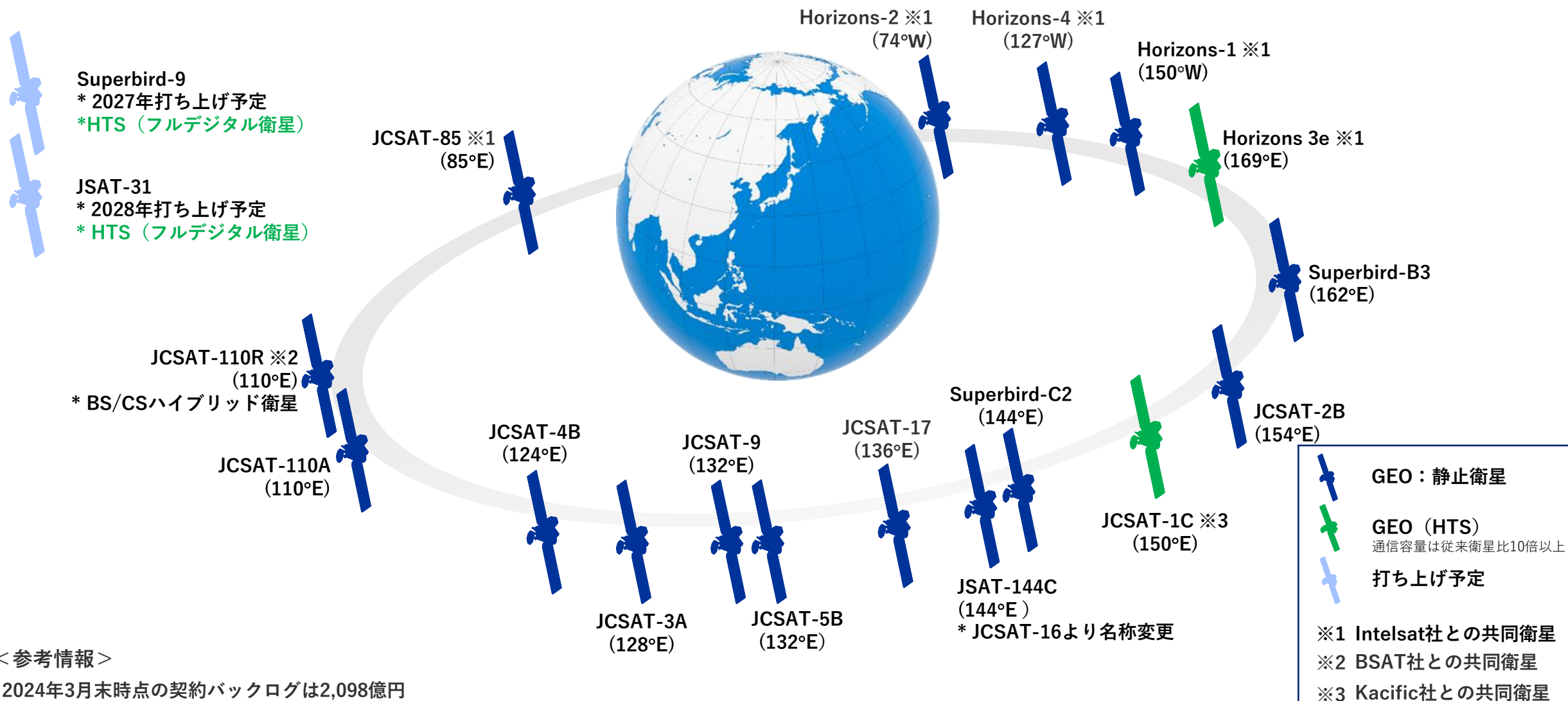


SKY Perfect JSAT Group

SPACE BUSINESS

北米上空からインド洋上空まで 計17機 の衛星を保有

(2024年10月末時点)



衛星や通信回線の運用を24時間365日体制で実施

群馬テレポートセンター



北海道ネットワーク管制センター



副局：
山口ネットワーク管制センター



副局：
茨城ネットワーク管制センター



主局：
横浜衛星管制センター



沖縄ネットワーク管制センター



■ 官公庁・自治体、企業向け 堅固な通信基盤を提供

- ・ 官公庁・自治体、電力会社等への衛星通信サービス
- ・ 重要拠点間通信、災害対策・BCP用バックアップ回線

■ 携帯キャリア向け 携帯基地局バックホール回線を提供

- ・ 携帯電話基地局と基幹網を結ぶ衛星回線の需要増
- ・ 離島や山間僻地の衛星バックホール回線
- ・ 災害対策としての携帯移動基地局向け衛星回線

■ 衛星運用管制受託サービス

- ・ 防衛省、JAXA、QPS研究所の衛星運用等

■ 地上局サービス

- ・ 低軌道衛星向け地上局サービス
- ・ JAXA向け近地球ネットワークサービス（サービス提供準備中）



災害現場の携帯移動基地局



横浜衛星管制センター内管制室

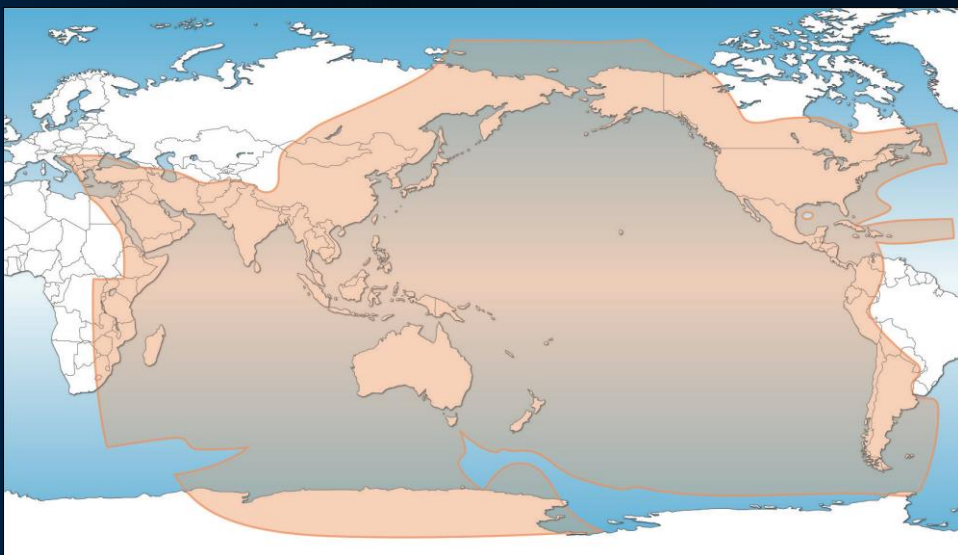
■ アジア・太平洋、北米を中心にグローバル事業展開

- 東南アジアでの衛星通信需要が拡大
- Intelsatと共同でHorizonsシリーズ衛星保有
- ワシントンD.C.、シンガポール、ジャカルタの拠点を中心に営業活動を推進

■ 航空機・船舶向け ブロードバンド回線を提供

- 機内Wi-Fiの利用拡大に伴うデータ量の増加により、需要が拡大

サービスエリア（Ku-band）（14/12GHz）



- 地球観測衛星から得られる画像や位置情報など、さまざまなデータを活用したサービスを提供

衛星製造
オペレーション

地球局・データ

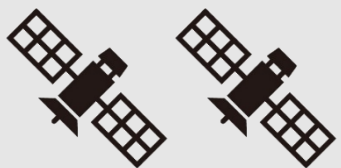
VAR (Value-Added-Reseller)

エンド
ユーザー



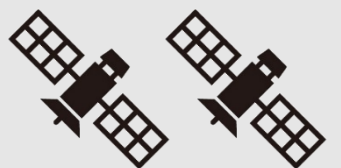
パートナーシップ推進・事業領域拡大

地球観測衛星*



光学

SAR



電波監視 Hyperspectral



データ収集
データ伝送



AI 技術



データベース



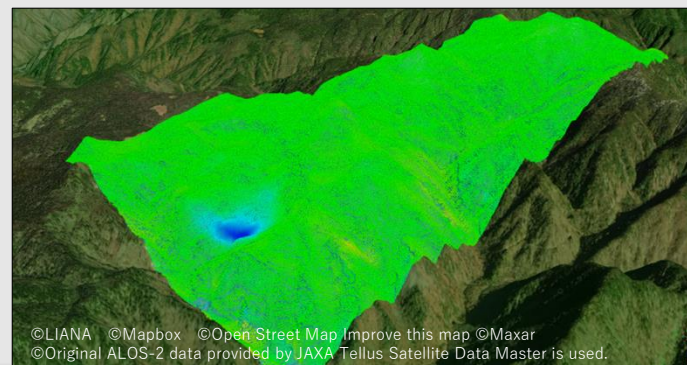
外部データ

天気, 経済, 交通
SNS情報など

画像・データ



アプリケーション解析・分析



政府
公共事業
民間企業



通信関連事業

2023年度営業収益 **647** 億円



国内衛星通信分野

官公庁や電力・ガス等の公共インフラ企業にBCP対策として通信回線を提供。その他、携帯電話基地局向けバックホール回線等を提供。長期契約等による安定した事業地盤。

営業収益構成比

48%



グローバル・モバイル分野

海外の官公庁やインフラ企業等へ通信回線を提供。モバイル分野では、航空機・船舶向けに通信回線を提供。特に航空機Wi-Fi需要が旺盛であり、需要が見込まれる分野。

27%

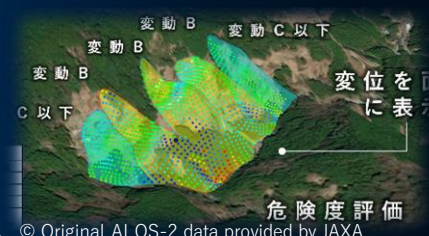


国内衛星放送分野

スカパー！のプラットフォームサービスを利用するチャンネル運営事業者へ衛星回線を提供。

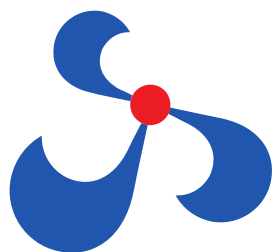
21%

スペースインテリジェンス事業



地球観測衛星から得られる画像や位置情報などの様々なデータを活用したサービスを提供。官公庁における安全保障需要や防災・減災分野に加え、新たな市場の開拓に取り組んでおり、成長を期待する分野。

4%

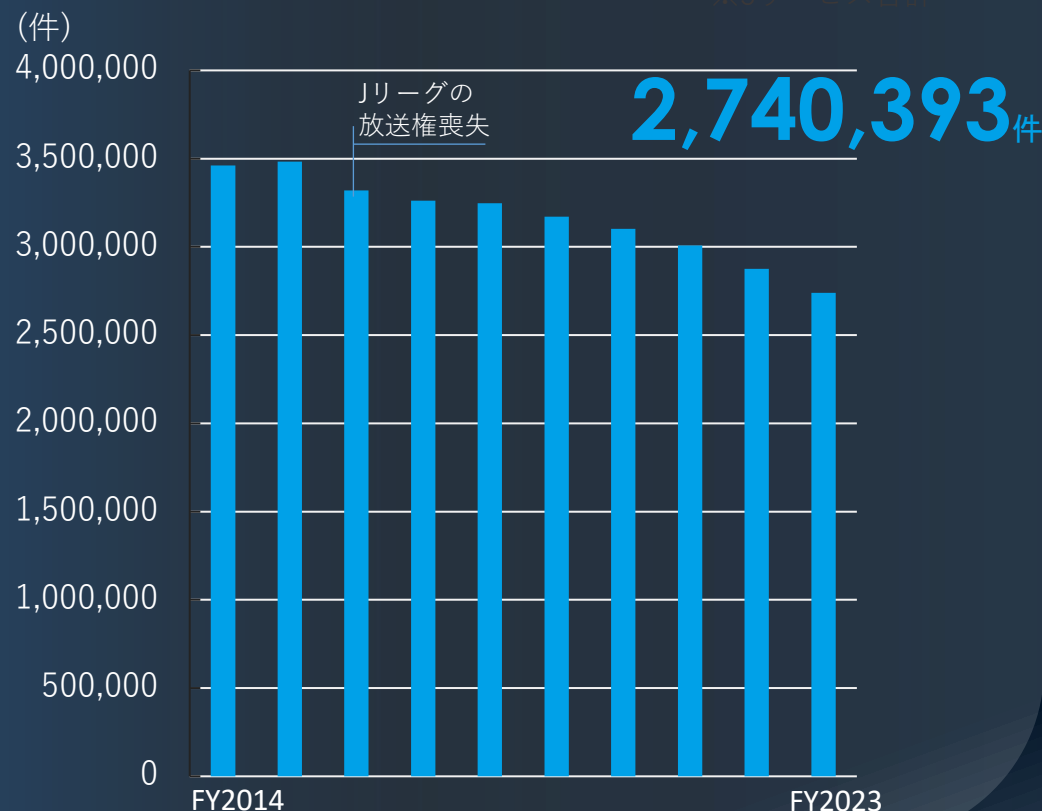


SKY Perfect JSAT Group

MEDIA BUSINESS

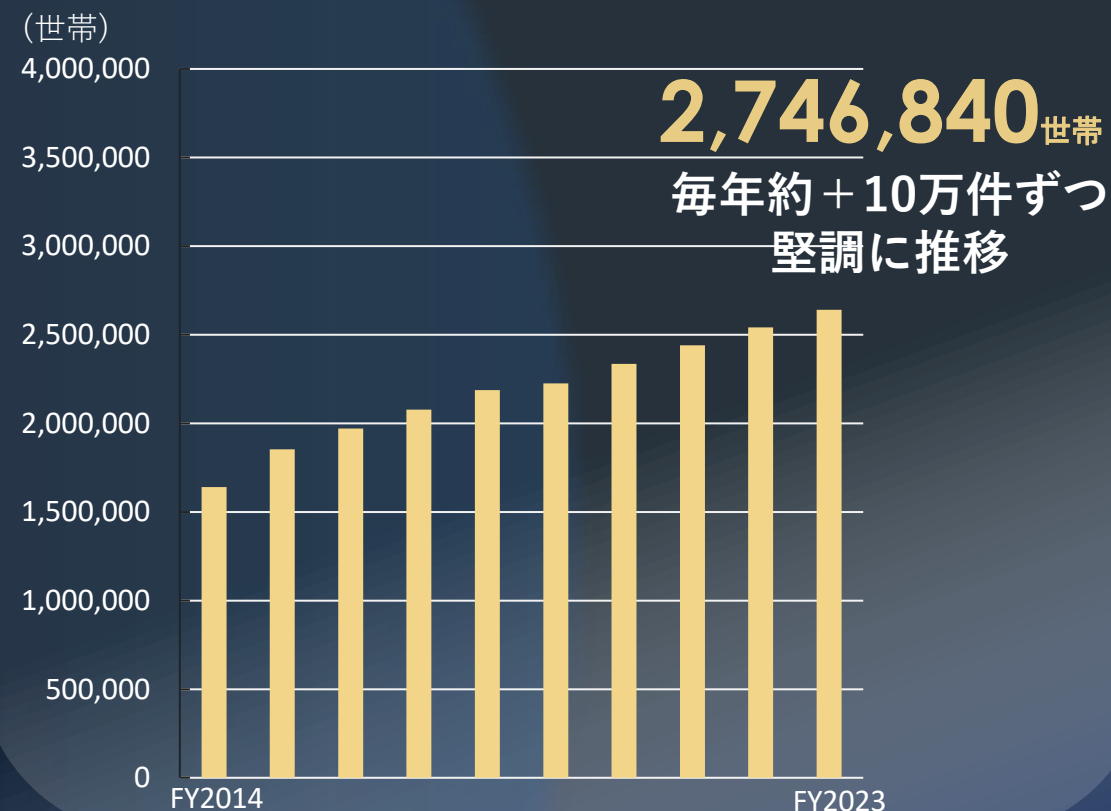
スカパー!

有料多チャンネル放送 累計加入件数（IC数）

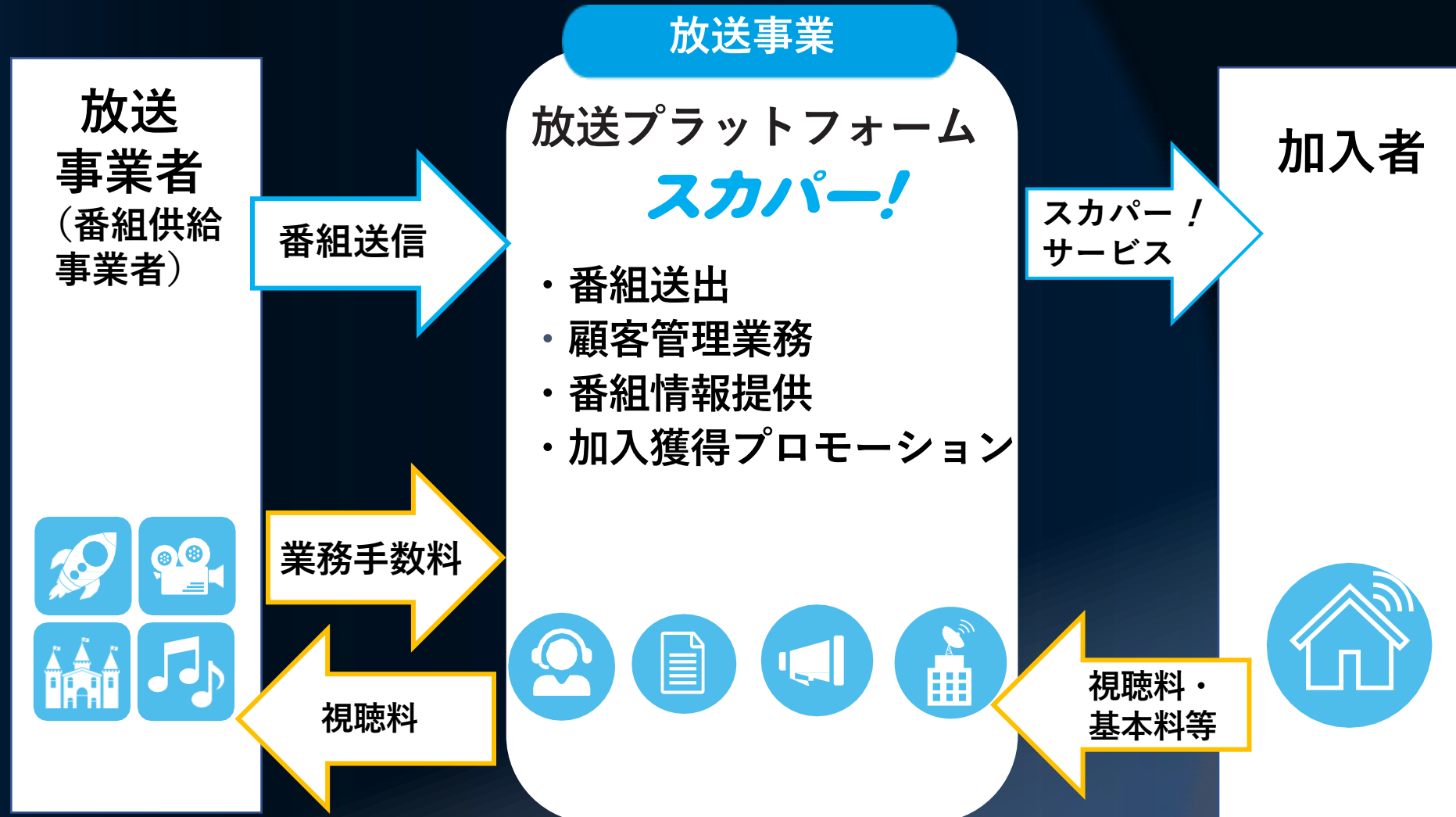


FTTH

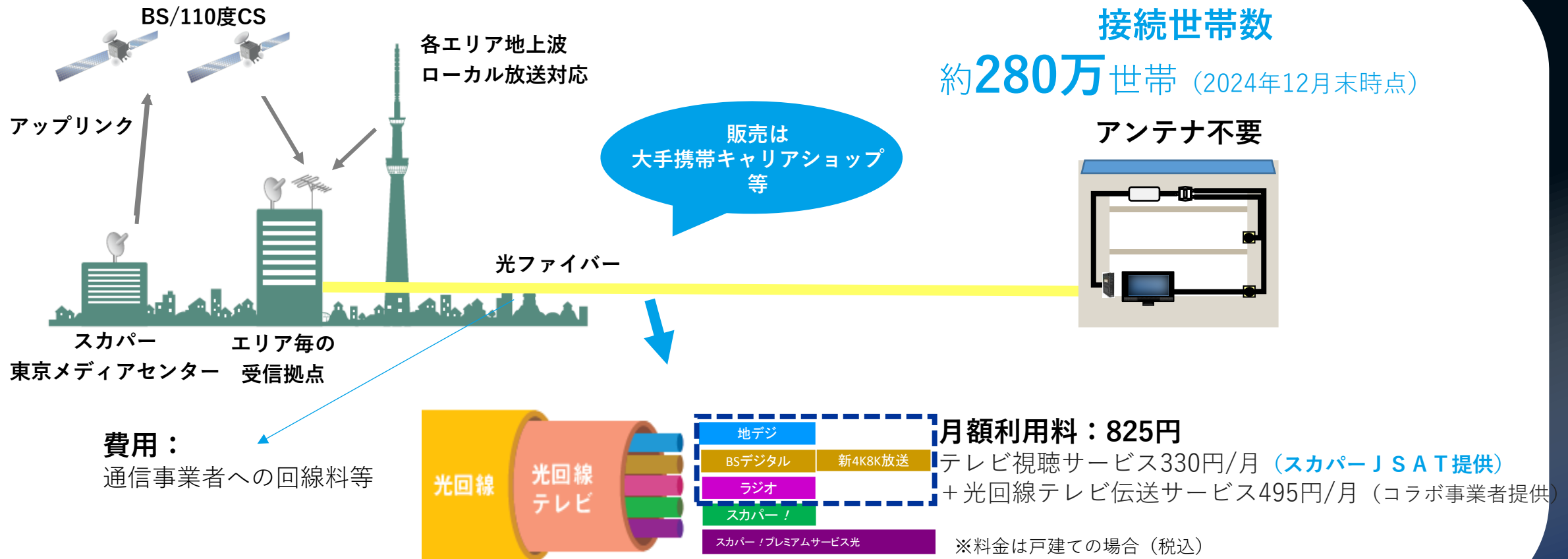
地上波等光再送信サービス 接続世帯数



有料多チャンネル放送「スカパー！」のプラットフォームとして、
各放送事業者と加入者の間に立ち、番組送出、顧客管理、販売促進業務を実施



- 戸建・マンション向けに**光回線**で地上波・BS・CS放送等を再送信
- 提供エリアは37都道府県、**世帯カバー率77%**まで順調に拡大
- 再送信サービス導入マンションやアパートなど集合住宅契約も増加



- 放送・配信事業と衛星通信事業で培った技術・ノウハウ・ファシリティを活用し、**お客様の映像中継・制作・伝送・配信・サイト運用等の課題解決を支援**
- 放送事業者に限らず、企業向けの配信システム構築・運用をワンストップで提供



スカパー東京メディアセンター



効率性・経済性・安定性を活かして企業課題を解決

2023年度営業収益 **665**億円

スカパー！

放送

営業収益構成比

日本最大級の衛星有料多チャンネルプラットフォームとして顧客管理、加入者獲得プロモーション等を提供。チャンネル事業者/番組供給事業者からは業務手数料、加入者からは基本料を売上として計上。

64%



FTTH

光回線を経由した地上波/BS放送・FMラジオならびにスカパー！の再送信サービスを提供。今後もサービスエリア拡大による契約者増加とともに大型マンションでの一括導入等により、成長を期待する分野のひとつ。

14%



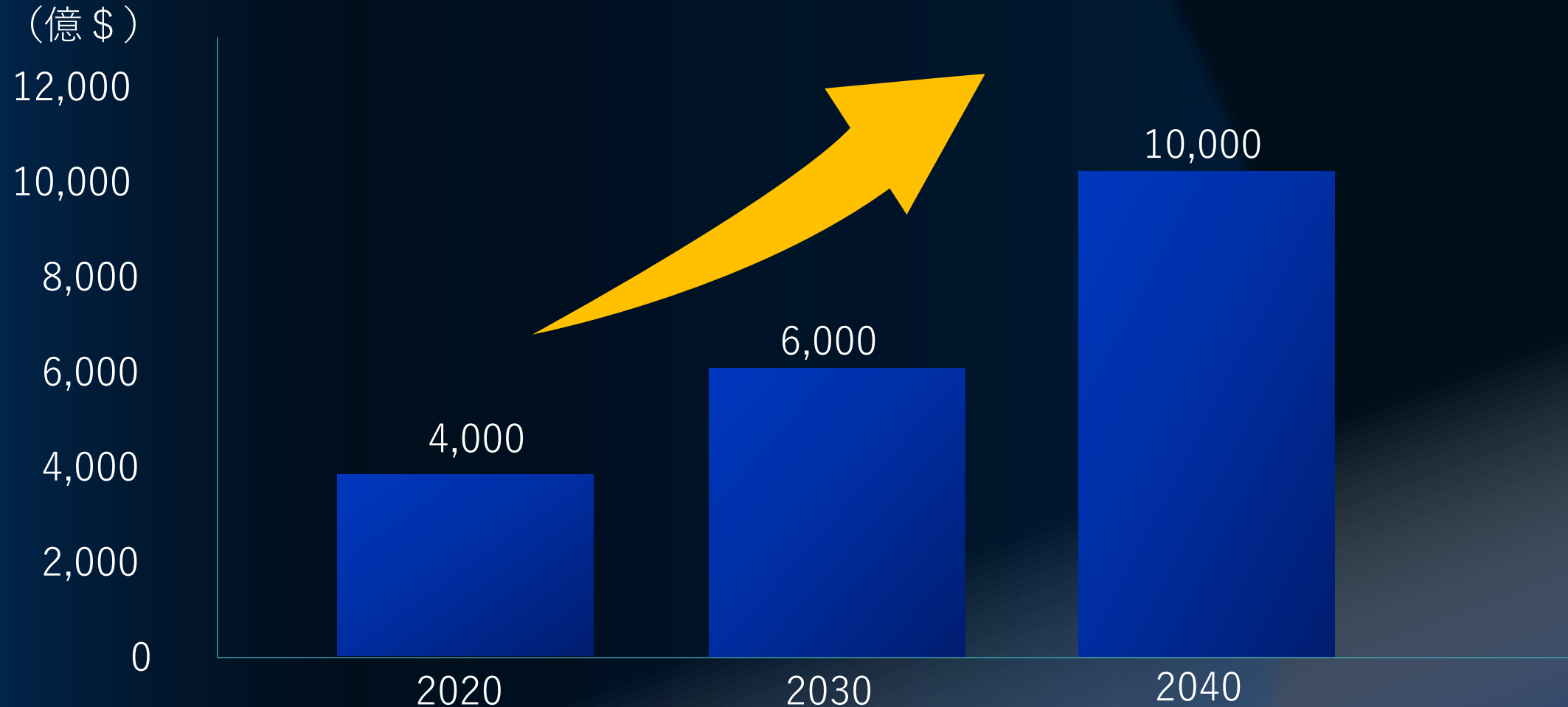
その他

チャンネル事業者/番組供給事業者向けの、番組送出業務など衛星放送に付随するサービスを中心に、メディアセンターの設備やノウハウ等放送のアセットを活かし、映像制作会社や配信プラットフォーム等民間企業へサービスを提供（メディアソリューション）。

22%

Growth Story

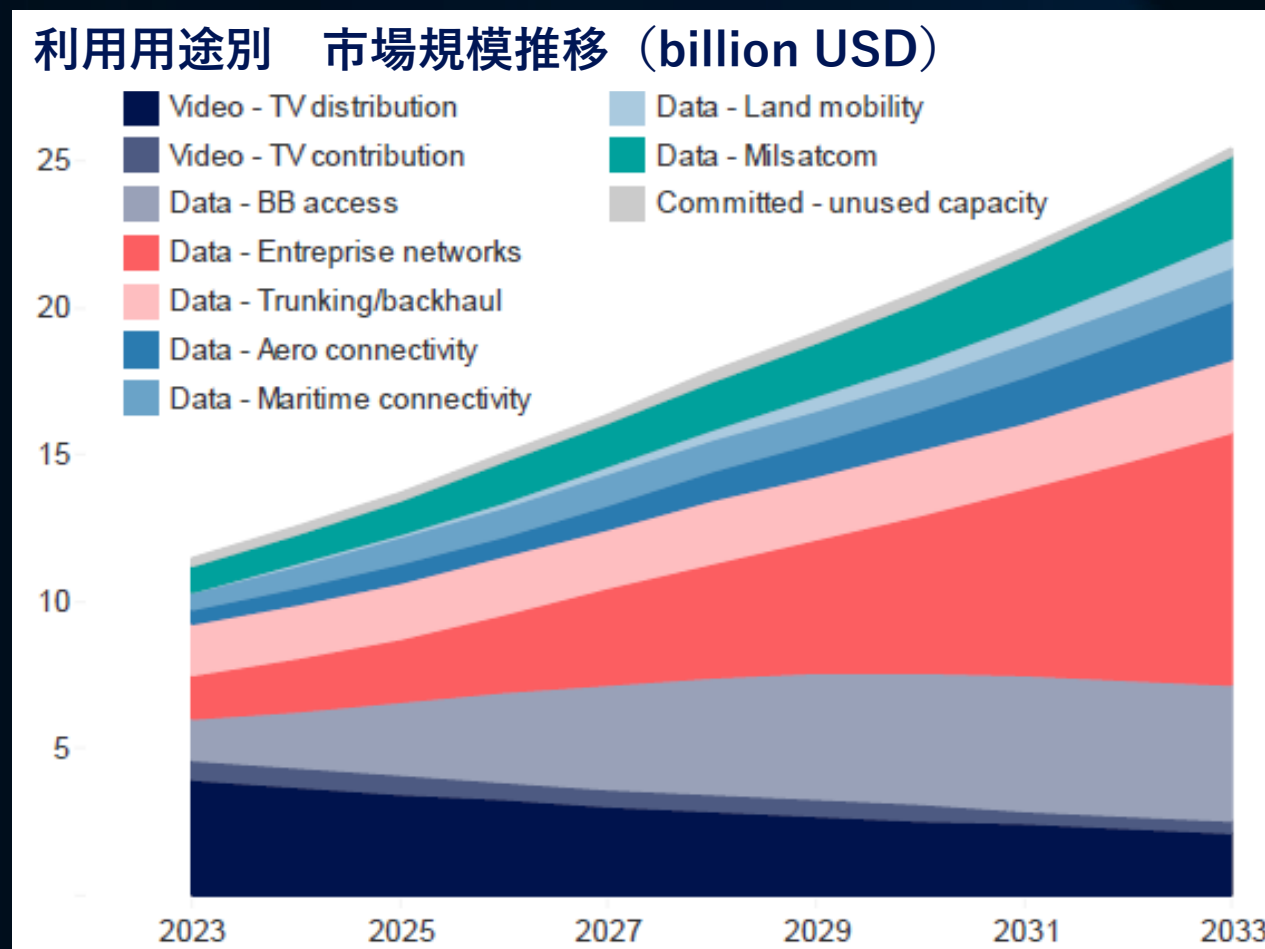
■ 宇宙産業の市場規模は2040年までに**150兆円**規模に拡大 ※USD1=150円で計算



経済産業省「国内外の宇宙産業の動向を踏まえた経済産業省の取組と今後について」を元に当社にて作成
引用：2020年7月 Morgan Stanley <https://www.morganstanley.com/ideas/investing-in-space>

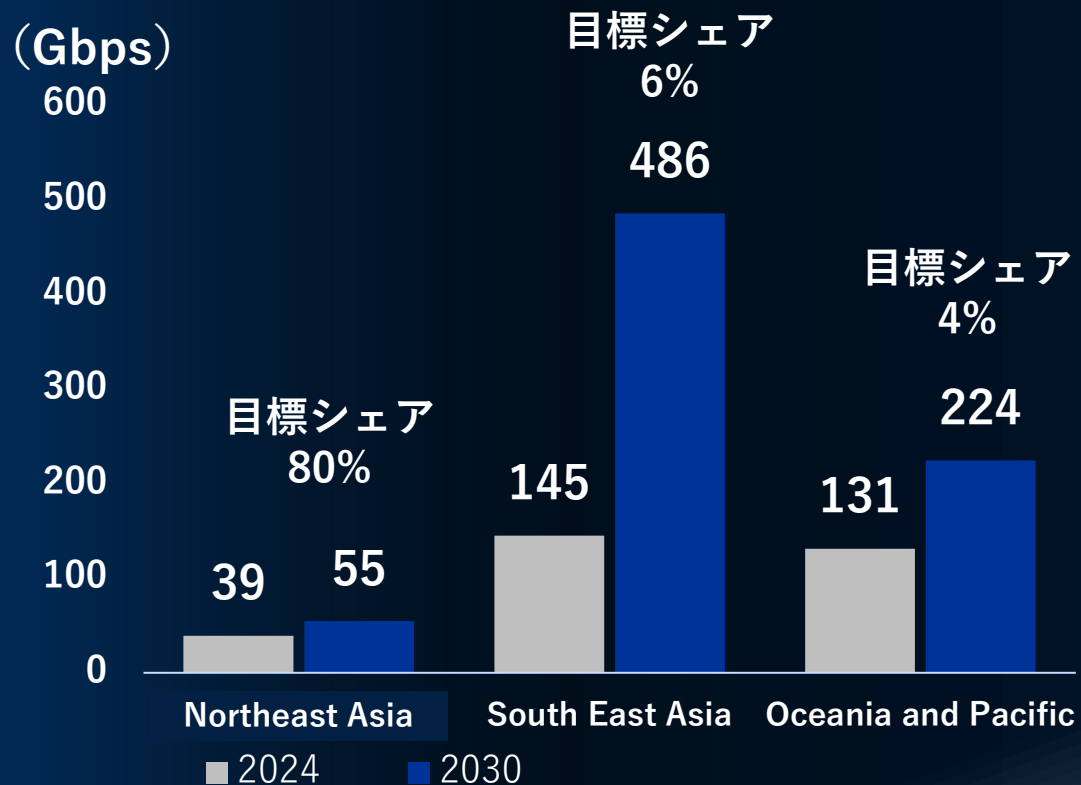
- 世界全体の衛星通信市場規模は、2033年には現在の倍の**約4兆円に拡大**
- **企業内通信、航空機・船舶等の移動体、安全保障等**の需要が拡大

※USD1=150円で計算



大容量で競争力のある新衛星2機を投入、
既存顧客基盤に加え、国内外でのさらなる帯域拡販により収益拡大を目指す

アジア・太平洋地域のGEO通信需要予測



出典：Euroconsult Satellite connectivity and Video Market 2024/10

Superbird-9 (2027年打ち上げ予定)



移動体

Superbird-9は既に航空機向け回線提供契約を締結済み

アジア・太平洋地域

2030年に向けて急拡大する需要を獲得

JSAT-31 (2027年打ち上げ予定)

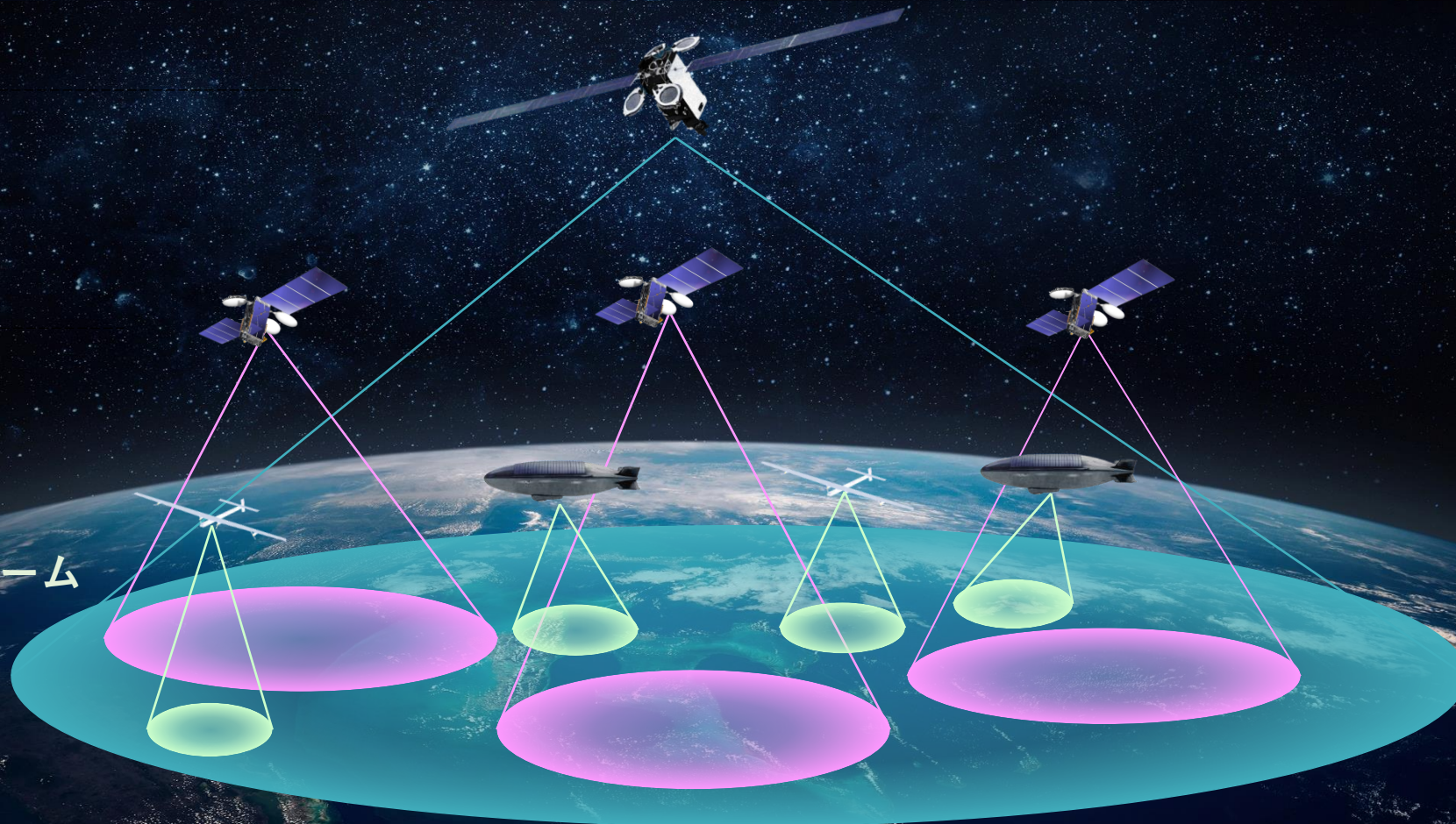


静止軌道衛星 × 非静止軌道衛星 × HAPS
アプリケーションに応じた最適な通信インフラを提供

GEO
静止軌道衛星

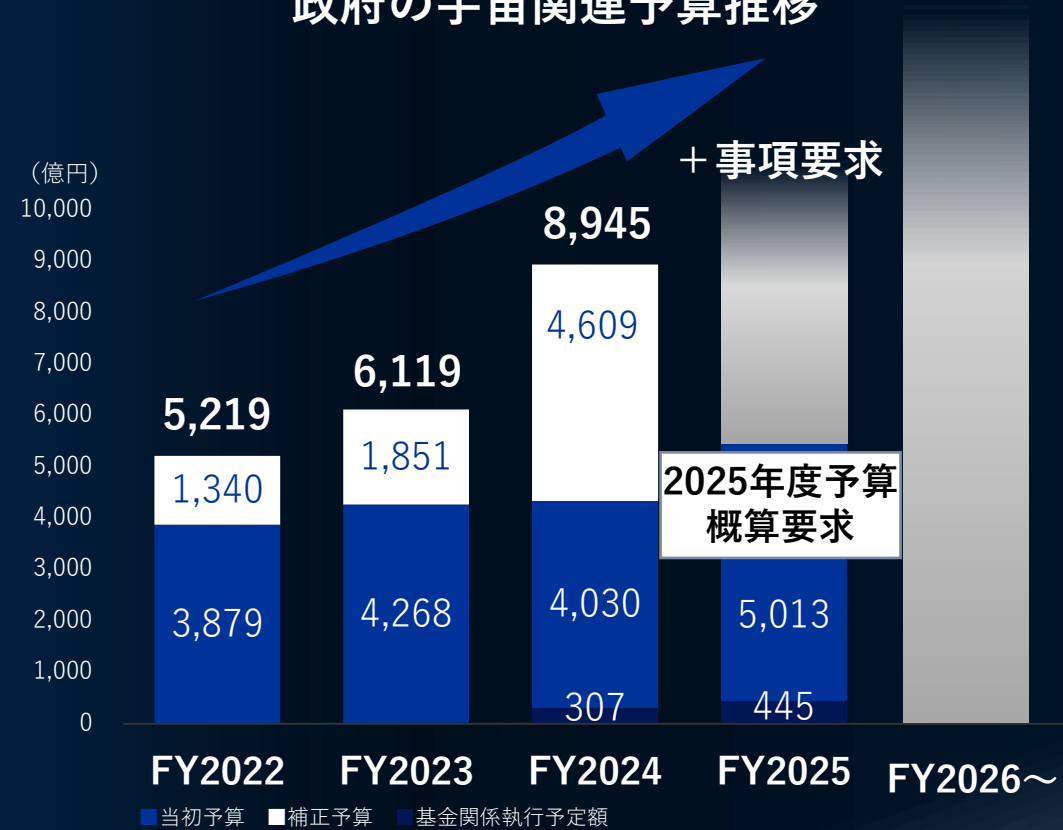
non-GEO
非静止軌道衛星

HAPS
高高度プラットフォーム



政府の宇宙関連予算は増加し、事業機会が拡大

政府の宇宙関連予算推移



主な宇宙関連予算 (FY2024)

内閣衛星情報センター 897億円

✓ 情報収集衛星の開発・運用

内閣府 370億円

✓ 小型衛星コンステレーションの構築など

経済産業省 1,642億円

✓ 小型衛星の競争力強化に向けた研究開発等

防衛省 1,077億円

✓ 画像解析用データの取得

✓ 宇宙領域把握 (SDA)衛星の整備

宇宙関連の防衛費

5年間総額 1 兆円

(2023年度～2027年度)

従来の通信回線提供等に加え、非通信分野での貢献を目指す



FY2024
売上目標
約90億円
(国内・海外)

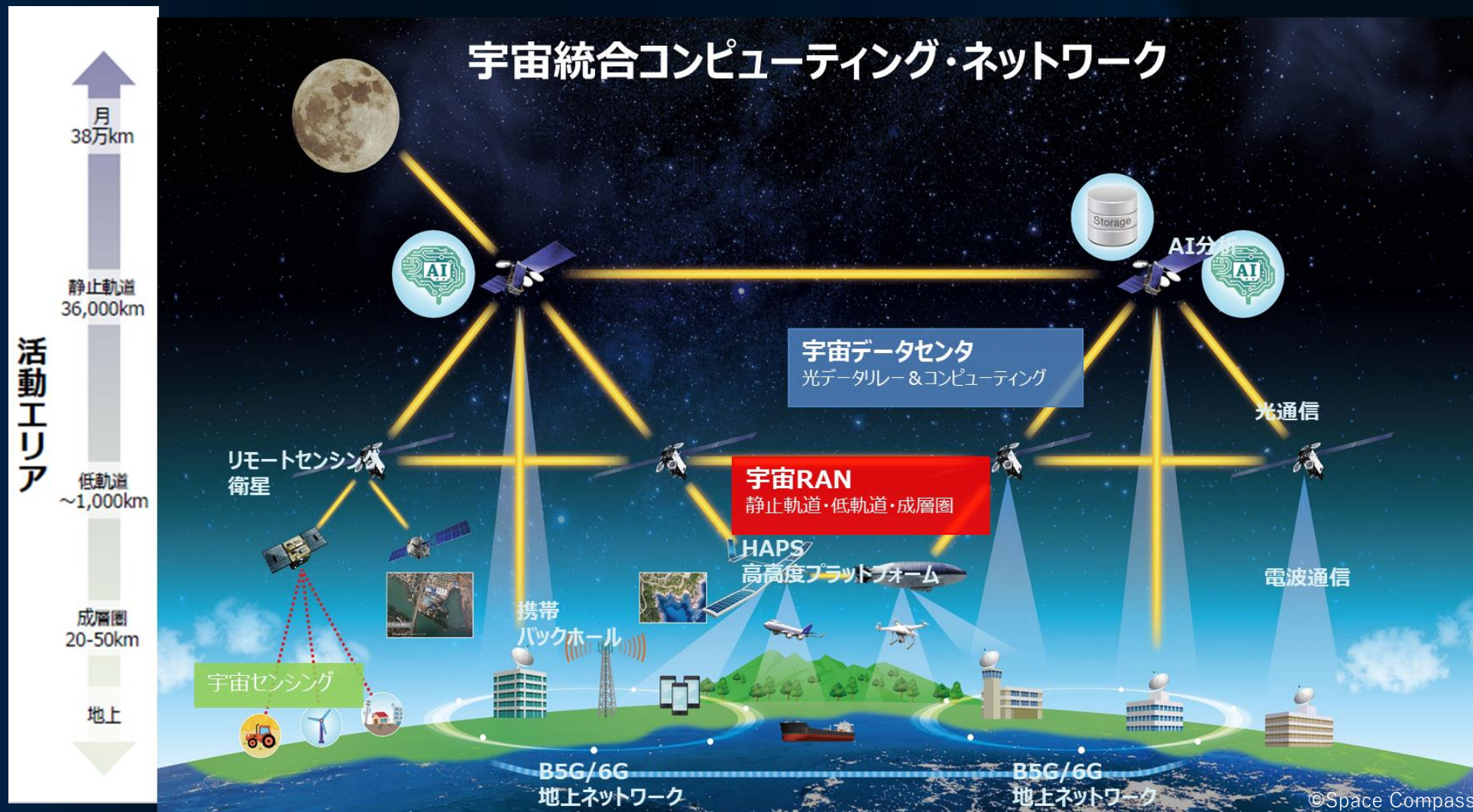
FY2030
売上目標
約150億円
(国内・海外)

衛星コンステレーションの自社構築・保有に向け約400億円の投資を決定

- 通信から非通信へビジネスフィールドを拡大
- 世界最高水準の30cm解像度を誇る次世代光学観測衛星10機をPlanet社より調達
- 高精細な衛星データの活用により、安全保障ニーズに対応、さらに民間市場開拓を加速



- NTTとの合併会社Space Compassによる、新たな宇宙インフラの構築
- 宇宙データセンタ事業および宇宙RAN事業を推進



- スカパーJ SAT 発のスタートアップとして、2024年設立
- 高度な宇宙用レーザー技術を活用した事業を展開

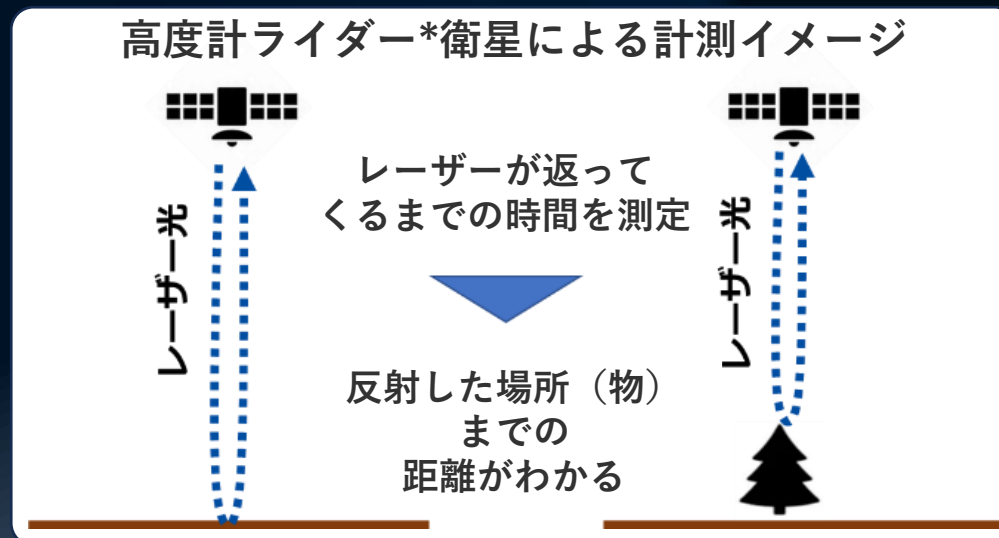
①スペースデブリ除去事業

高度な宇宙用レーザー技術を用いて、スペースデブリを除去
遠隔で安全かつ正確にデブリの軌道や運動を制御することが可能

②衛星LiDAR*（ライダー）事業

*LiDAR : Light Detection and Ranging

独自の小型かつ高効率なレーザー技術に応用した小型ライダー衛星の開発を計画
将来的にコンステレーション構築・運用を行うことで、世界中のあらゆる場所・対象の高度を高精度に計測
計測データは、国土管理、防災・減災、都市開発、インフラモニタリングなどに活用



- 専用デバイスをテレビに接続することで多彩な動画配信サービスが視聴可能
- テーマやジャンルに沿って、動画配信サービスを横断してコンテンツを表示

スカパー！+ 2024年10月先行サービス開始



スカパー！+ ネットスティック

収益モデル

- 利便性向上によるスカパー！解約抑止（既存事業への貢献）
- CTVプラットフォーム収入（デバイス販売収入及びデータの活用事業を想定）

利用者ターゲット

- スカパー！契約者（DTH、FTTH再送信）を中心に、CATV事業者等の他事業者ユーザーや、幅広い事業者と連携した普及



- スカパー・ピクチャーズ設立
- アニメを中心としたグローバルIPビジネスを創出
- パートナーである伊藤忠グループの資源を活用した流通・商品展開



「チ。ー地球の運動についてー」

NHK総合テレビにて毎週土曜日放送中（2025年1月時点）

Netflix・Abema、その他各種配信PFにて国内外へ配信

キャスト：島袋美由利・日野聡ほか

アニメーション制作：マッドハウス

参考資料

セグメント別 業績推移

34

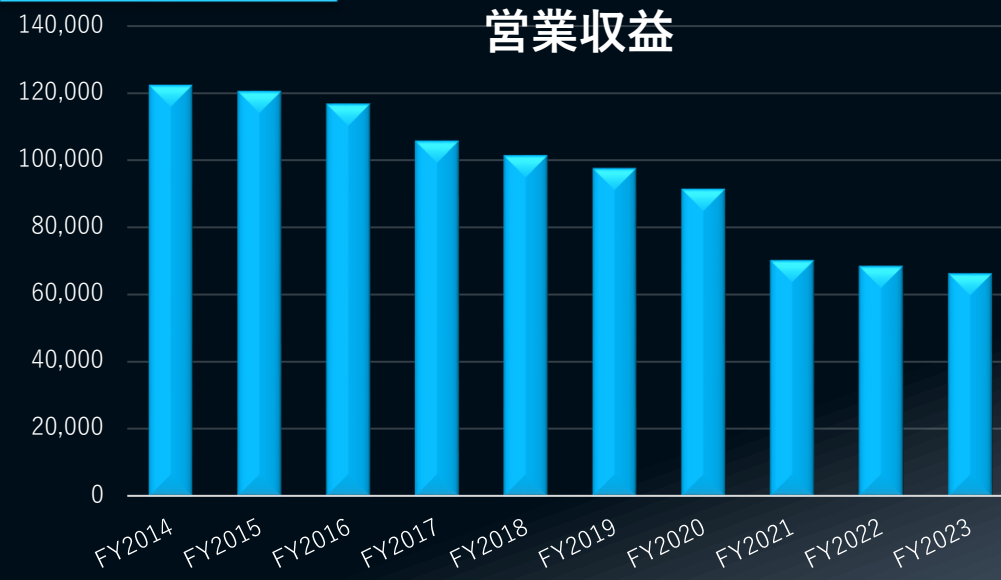


(百万円)

宇宙事業



メディア事業



成長投資 3,000億円（2022年度～2030年度）

既存事業への投資とともに、
2030年度以降の持続的な成長に向け積極的に投資を推進

FY2022～FY2030 投資累計
3,000億円

新領域事業の展開
1,200億円～

基盤事業の収益性強化
～1,800億円

- スペースインテリジェンス
Universal NTNを含む
新領域
- 光再送信サービス拡大
コネクテッドTV

- 静止衛星・地上インフラ
- スカパー東京メディア
センター設備更新

FY2021
連結当期純利益
146億円

FY2030
連結当期純利益目標
250億円～

FY2022

FY2030

*上記投資累計図はFY2023までは実績値

1 事前検討

- ・ 軌道位置の確保
- ・ 需要予測

2 衛星の仕様検討

- ・ サービスエリア
- ・ 搭載周波数
- ・ 中継機数

3 発注・製造

- ・ メーカー選定
- ・ 工程管理および性能評価を実施

4 静止軌道への投入

- ・ 軌道上で性能試験実施

5 運用

- ・ 衛星監視・制御
- ・ 通信サービス提供



衛星調達コスト200~500億円程度

製造費

打ち上げ費

保険料

2~3年

工程ごとに、都度分割払い

建設仮勘定

償却開始

設計寿命15年
定額法で償却

固定資産



衛星放送（アンテナ経由）

今すぐ
番組を楽しむ

スカパー!

約**70** ch



TV・レコーダー内蔵

192万件

収益認識

視聴料のうち約30%を
業務手数料収入として収益認識

チャンネル数と
画質にこだわる

スカパー!
プレミアムサービス

約**130** ch



専用チューナー必要

66万件

視聴料のうち番組供給料を控除した
約50%を視聴料収入として収益認識

光回線経由

アンテナ不要で
スッキリ

スカパー!
プレミアムサービス 光

約**130** ch



専用チューナー必要

インターネット経由

スマホ・PC・タブレット・TVで
いつでもどこでも



スカパー!に未加入のお客
さまにもご利用いただける
有料動画配信サービス



スカパー!番組配信

放送サービス加入者向け付帯サービス
として無料で提供

連絡先:

株式会社スカパーJSATホールディングス
広報・IR部

E-Mail: ir@skyperfectjsat.co.jp

➤ 最新IR資料| IR ライブラリー

<https://www.skyperfectjsat.space/ir/library/>

➤ 動画

スカパーJSATグループ 紹介ムービー

<https://www.youtube.com/watch?v=9YXcCJLGi9w>

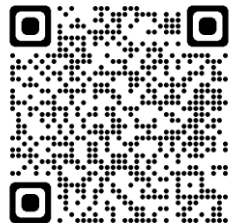
メール配信サービス

<https://www.skyperfectjsat.space/ir/mail/>

X



Linkedin



Youtube

